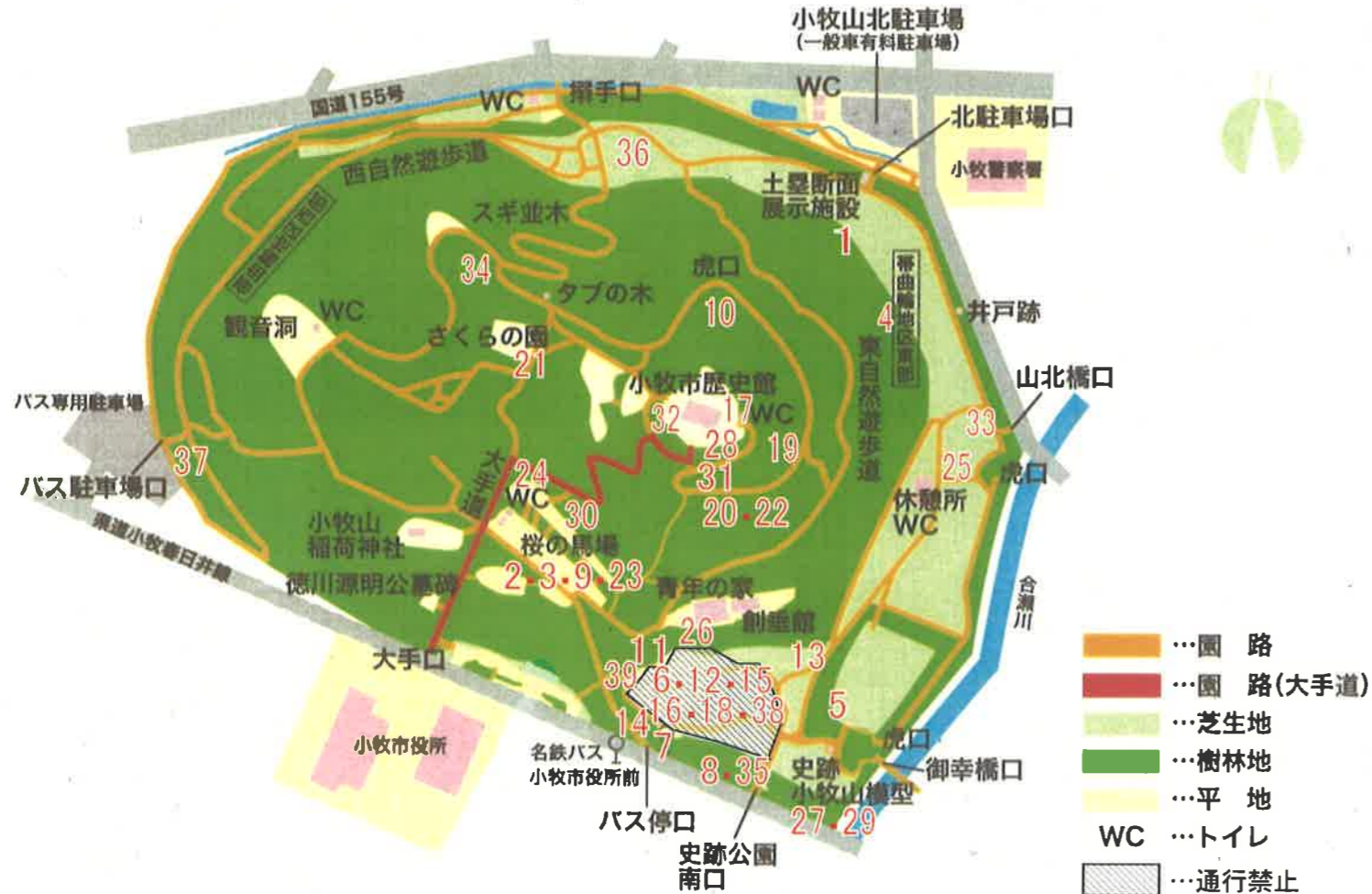


小牧山の花



※地図に示している数字は、花を撮影した場所です。撮影地以外でも山中で見られる場合があります。

※山中に咲いている花を摘んだり持ち帰ったりしないでください。

※撮影地は一部、現在は通行できない箇所があります。あらかじめご了承ください。

1 アセビ	11 エゴノキ	21 クチナシ	31 ヒガンバナ
2 サクラ (ソメイヨシノ)	12 センダン	22 リョウブ	32 キンモクセイ
3 アオキ (雄花)	13 タニウツギ	23 ツユクサ	33 サクラ (シキザクラ)
4 カタクリ	14 ドクダミ	24 イヌタデ	34 サザンカ
5 ユキヤナギ	15 ヤマボウシ	25 ハギ	35 ツワブキ
6 ハナカイドウ	16 アオギリ	26 クズ	36 ウメ
7 シャガ	17 ネズミモチ	27 ムクゲ	37 ツバキ (ヤブツバキ)
8 ヤマブキ	18 ナツツバキ	28 ベニバナポロギク	38 ハナモモ
9 ツツジ (オオムラサキ)	19 アジサイ	29 サルスベリ	39 ジンチョウゲ
10 ムラサキケマン	20 サカキ	30 ヤブミョウガ	

【協力者】 自然観察指導員 清水 豊 氏

【参考文献】

『色別 野の花図鑑』著者：菅原久夫 発行所：株式会社小学館 発行年：2001年

『NHK 趣味の園芸 樹木図鑑』著者：北村文雄、巽英明、妻鹿加年雄 発行所：NHK出版 発行年：2001年

『花図鑑 樹木 増補改訂版』監修：伊丹清 発行所：株式会社草土出版 発行年：2004年

『開花順 四季の野の花図鑑』著者：いがりまさし 発行所：株式会社技術評論社 発行年：2008年

『葉・花・実・樹皮でひける 樹木の事典600種』著者：金田初代、金田洋一郎 発行所：株式会社西東社 発行年：2015年

【参考Website】

「自然林・二次林・人工林」<https://www.city.sano.lg.jp/komoku/kankyuu/emap/syokusei.html>

メナード美術館と小牧市歴史館の連携企画「小牧山の花」

期間：平成29年5月19日（金）～7月19日（水） 場所：小牧市歴史館 3階

編集：小牧市教育委員会生涯学習課文化財係

〒485-8650 愛知県小牧市堀の内三丁目1番地 TEL (0568) 76-1189



サクラとヒヨドリ(鳥)
4月撮影



サルスベリ
7月撮影



市の花 ツツジ
4月撮影



キンモクセイ 10月撮影



ツバキ 2月撮影

ごあいさつ

小牧山は、標高85.9m、面積約21haの独立丘陵です。市の中心市街地のすぐ西側に位置していても、豊かな自然に恵まれ、人々の憩いの場となっています。

小牧山の植物は、永禄6年(1563)に織田信長が小牧山に城を築いた際、また、天正12年(1584)小牧・長久手の合戦で織田信雄・徳川家康連合軍が、信長の築いた城を改修し陣城とした際にほとんど伐採されたと考えられます。

江戸時代に入ると、尾張藩が一般の入山を禁止するなど手厚く保護し、マツとタケを中心とする古城としての樹木管理がなされました。

近～現代には公園として開放利用されていましたが、昭和34年(1959)の伊勢湾台風により山中の樹木の多くが倒れたり傷つきました。復旧にあたってはサクラやスギ、ヒノキなどの植樹が行われたため、自然植生ではない部分も多くあります。

現在では、マツはほとんど見られず、この地域本来のシイ・カシ類、クスノキ、タブノキ、オガタマノキ、サカキ、ヤブツバキを中心とする常緑照葉樹林やコナラ、アカメガシワ、ハゼノキ、キリなどの夏緑広葉樹林に移行しています。

本企画展は、メナード美術館にて開催の「所蔵企画展 花 -Beautiful Flowers in the MENARD ART MUSEUM-」(4月27日(木)～7月9日(日))にちなみ、小牧山の植物の中から、樹木に限らず野草なども含め、花を咲かせるものについてクローズアップし、その一部をご紹介します。

緑豊かな小牧山の自然の中で、現在咲いている花を実際にご覧いただきながら、心安らぐ時間を過ごしていただくと幸いです。

最後に、ご協力いただいた方々に衷心より感謝申し上げます。

平成29年5月

小牧市・小牧市教育委員会



1 アセビ

開花時期：3～4月 ツツジ科アセビ属 常緑低木～小高木
樹高：1～8m

有毒植物で、この枝葉を馬が食べると酔ったようにふらつくため「馬酔木」と書きます。シシクワズとも呼ばれ、奈良公園では鹿の食害にあわず、多数のアセビが生育しているようです。開花はその年の気温に左右され、完全に花が散るのは晩春です。

2 サクラ (ソメイヨシノ)

開花時期：3～4月 バラ科サクラ属 落葉高木 樹高：10～15m

各地の公園や並木に植えられ、若葉が出る前に、枝いっぱいにつけます。小牧山ではソメイヨシノ、ヤマザクラといったサクラが多く見られますが、山中では4月下旬頃に黄緑色の花を咲かせるウコンというサクラも見られます。

3 アオキ (雌花：写真左 雄花：写真右)

開花時期：3～5月 アオキ (ミズキ) 科アオキ属 常緑低木
樹高：2～3m

つるつるした枝や光沢のある葉が、一年中青々としていることからついた名です。日本固有種で、北海道南部から沖縄まで分布しています。

4 カタクリ

開花時期：3～5月 ユリ科カタクリ属

花が咲き、実をつけると、夏が訪れる前に枯れてしまう野草をスプリングエフェメラル (春先のはかない命) と言い、カタクリはその一種とされています。かつては片栗粉の原料でしたが、現在販売されているもののほとんどはジャガイモが原料です。

5 ユキヤナギ

開花時期：4月 バラ科シモツケ属 落葉低木 樹高：1～2m

弓状に伸びた細い枝いっぱいに、一重の白い花がびっしりと咲きます。枝は細く伸び、湾曲して垂れます。花が雪、枝が柳を思わせることからついた名で、花が咲く時期になるとしなやかな枝が雪のような花で埋まります。

6 ハナカイドウ

開花時期：4月 バラ科リンゴ属 落葉低木～小高木 樹高：1.5～5m

唐の玄宗皇帝が、眠りからさめた楊貴妃のなまめかしいさまをハナカイドウに例えたという故事があり、昔から美人の形容に使われています。

7 シャガ

開花時期：4月～5月 アヤメ科アヤメ属

低地や人里近くの湿った森林で見られます。長い地下茎を伸ばし、その先に芽をつくって増えるので、大きな群落をつくります。日本のものはタネができませんが、原産地の中国にはタネができるものがあります。



8 ヤマブキ

開花時期：4～5月 バラ科ヤマブキ属 落葉低木 樹高：1～2m

万葉集に登場し、古くから鑑賞されてきた花です。しなやかな枝が山のわずかな風にもゆれる様子から古くは「山振」といい、それがなまって「山吹」になったと言われています。なお、小牧山には八重咲きの品種もあります。



9 ツツジ (オオムラサキ)

開花時期：4～5月 ツツジ科ツツジ属 常緑低木 樹高：1～2m

江戸時代から栽培されていたヒラドツツジの品種群の一つであり、ツツジの中では大型で、鮮やかな紫紅色の花をつけます。昭和47年(1972)8月小牧市の花に選定されました。



10 ムラサキケマン

開花時期：4～6月 ケシ科ケマン属

中国から渡来したと考えられ、日本全土の人里で見られます。木陰などの直射日光の当たらない湿ったところに生えます。



11 エゴノキ

開花時期：5～6月 エゴノキ科エゴノキ属 落葉高木 樹高：5～15m

たくさんの白い花が枝から垂れ下がって咲いた後、灰白色の果実が生ります。この果皮は毒を含んでおり、舐めるとのどを刺激してえぐい(えごい)ので、この名前がついたそうです。かつては果皮をすりつぶして洗濯に使ったり、川に流して魚とりに使ったりしました。木材は傘の柄や玩具、床柱などに使われます。



12 センダン

開花時期：5～6月 センダン科センダン属 落葉高木 樹高：5～10m

その年に伸びた新しい枝の先に、淡い紫色の5弁の花をたくさん咲かせ、遠くからでも目立ちます。秋に黄色く熟す実は葉が落ちてても枝に残り、野鳥たちの好物です。



13 タニウツギ

開花時期：5～6月 スイカズラ科タニウツギ属 落葉低木
樹高：1.5～3m

谷などに多く自生していることから名前が付いたと言われています。花の色は、赤、ピンク、白などがあります。



14 ドクダミ

開花時期：5～7月 ドクダミ科ドクダミ属

やや日陰の湿った場所で見られ、繁殖力が高く、ちぎれた地下茎からでも繁殖します。食用として、また、薬用としても使用されており、その効き目が10種に及ぶことから十薬という別名があります。



15 ヤマボウシ

開花時期：5～7月 ミズキ科サンシュユ（ミズキ）属 落葉高木
樹高：5～15m

花びらのように見える白い部分は総苞片（花の基部を包んでいる、小さい葉のような鱗片の集まりを総苞といい、1枚1枚の鱗片を総苞片という）であり、花は中心にある小さな花冠で、緑色をしています。丸いつぼみを法師の坊主頭に、白い総苞片を頭巾に見立て山法師と名前が付けられました。



16 アオギリ

開花時期：5～7月 アオイ（アオギリ）科アオギリ属 落葉高木
樹高：10～15m

葉がキリ（桐）に似て、樹皮が青緑色であることから名付けられましたが、キリとは全く異なります。中国では秋の訪れを告げる木ですが、日本では夏の季語です。花が咲いた後には袋状の実を付け、実が裂けると縁に丸い種子が付きまします。戦時中はコーヒーの代用にしたそうです。



17 ネズミモチ

開花時期：6月 モクセイ科イボタノキ属 常緑小高木 樹高：2～6m

関東地方以西から沖縄の山地に広くみられます。枝先に白い小さな花を円錐状にたくさんつけ、秋に黒紫色に熟した果実が、ネズミの糞に似ていること、また、葉がモチノキに似ることから両者を合わせて名がついたと言われています。



18 ナツツバキ

開花時期：6～7月 ツバキ科ナツツバキ属 落葉高木 樹高：10～20m

花は、朝開いて夕方には落ちます。ツバキに似た花を夏に咲かせるのでこの名前が付いています。



19 アジサイ

開花時期：6～7月 ユキノシタ科アジサイ属 落葉低木 樹高：1～2m

一説には「紫」と「真藍」が合わさって名前が付いたと言われており、美しい藍色の小さな花が集まって咲くことを意味しています。奈良時代から鑑賞されていたようで、万葉集に2首詠まれています。



20 サカキ

開花時期：6～7月 サカキ（ツバキ）科サカキ属 常緑高木
樹高：8～12m

神聖な木として神社の境内などにもよく植えられています。一説には、葉がいつも青々としているので「常葉木」から名付けられたとも言われています。花は、初めは白色ですが、次第に黄色を帯び、果実は11～12月頃に黒紫色に熟します。



21 クチナシ

開花時期：6～7月 アカネ科クチナシ属 常緑低木 樹高：1～2m

甘い香りのする花で、果実が熟しても裂けたりはじけたりしないことから「口無し」と名付けられました。11～12月頃に生る実は熟すとオレンジ色になり、平安時代から染料として利用されてきました。また、きんとんやたくあんなどの食品の着色料として使用されています。



22 リョウブ

開花時期：6～8月 リョウブ科リョウブ属 落葉小高木
樹高：8～10m

奈良時代から平安時代に、飢饉に備えて若葉の貯蔵を命ずる官令が出されたことから「冷法」の名前が付いたと言われています。若葉は山菜になり、樹皮は美しいため、床柱にも使用されます。



23 ツクサ

開花時期：6～10月 ツクサ科ツクサ属

早朝の露のある時間に花が開き、午後にはしぼんでしまう、その儂げな姿を朝露に見立ててこの名がついたと言われています。花の汁をこすりつけて着物を染めていた時代もあったようです。



24 イヌタデ

開花時期：6～11月 タデ科イヌタデ属

耕地周辺の草地や路傍でよく見られます。子どものままごと遊びで、赤飯に見立ててイヌタデの花や実を使ったため、アカマンマとも言われています。



25 ハギ

開花時期：7～9月 マメ科ハギ属 落葉低木 樹高：1～3m

蝶の形をした花が咲き乱れ、地面につくほどゆるやかに曲線を描いて垂れ下がる優美な姿が特徴で、公園樹や庭木として植えられています。



26 クズ

開花時期：7～9月 マメ科クズ属

奈良県吉野はクズ（葛）の産地で、その地名である「国栖」が名前の由来と言われています。秋の七草の一つとして古くから親しまれ、葛湯・葛菓子・葛根湯などに使われています。



27 ムクゲ

開花時期：7～9月 アオイ科フヨウ属 落葉低木 樹高：3～4m

「槿花一日の栄」と詠われるように、栄華のはかなさが、ムクゲ（槿）の朝開き夕方にしぼむ姿に例えられます。



28 ベニバナボロギク

開花時期：7～10月 キク科ベニバナボロギク属

熱帯アフリカ原産で、肥沃で明るい環境を好みます。山火事などにも耐え、アメリカではファイヤーウィード（火の草）の名前で呼ばれています。





29 サルスベリ

開花時期：7～10月 ミソハギ科サルズベリ属 落葉小高木 樹高：3～9m
中国南部原産で、江戸時代に日本に渡来しました。樹皮がはがれやすく、サルが滑り落ちるほどなめらかであることからその名が付けられました。花が咲く時期が長いことから「百日紅」ともいいます。



30 ヤブミョウガ

開花時期：8～10月 ツクサ科ヤブミョウガ属
葉がミョウガに似ていることからこの名前が付けられたと言われていましたが、ツクサ科であり、ミョウガとは関係はないようです。



31 ヒガンバナ

開花時期：9～10月 ヒガンバナ科ヒガンバナ属
毒草ですが、水にさらせば食べられることから、飢えをしのぐための救荒食物として植えられたようです。また、毒草であることから、土葬の際に害獣から遺体を守るために一緒に植えたとも言われ、墓地で多くみられる理由の一つであると考えられます。



32 キンモクセイ

開花時期：9～10月 モクセイ科モクセイ属 常緑小高木 樹高：4～6m
原産地は中国です。モクセイ類を総称して、中国では「木犀（音読みでモクセイ）」といい、オレンジ色の花を咲かせることから「金木犀」といいます。雄株と雌株があり、日本へ渡来したのは、花つきの良い雄株のみです。



33 サクラ (シキザクラ)

開花時期：3～4月、10～11月 バラ科サクラ属 落葉小高木 樹高：5～10m
年に二度花が咲く、サクラの園芸品種です。春は新芽と同時に、秋は葉が落ちる時期に花が咲きますが、花の大きさは春のほうが大きいです。

34 サザンカ

開花時期：10～12月 ツバキ科ツバキ属 常緑高木 樹高：2～6m
日本特産の花木です。ツバキと似ていますが、ツバキより寒さに弱く、花びらが1枚ずつばらばらになって散るといった違いがあります。



35 ツブキ

開花時期：10～12月 キク科ツブキ属
暖かい地方の、主に海岸近くの草地や明るい林の中で見られ、冬の訪れを告げる花でもあります。若い葉柄（葉と茎の間）はきゃらぶきとして食することができます。



36 ウメ

開花時期：2～3月 バラ科アズノ属、サクラ属 落葉小高木～高木 樹高：5～10m
原産地は中国で、その苗が日本へ渡来したのは飛鳥時代から奈良時代であったと考えられます。花の色は白、赤、桃とあり、寒中に咲く美しい姿と香りは古くから人々に愛されていました。ウメは多くの品種があり、花を觀賞する品種と実を採取する品種に分けられます。



37 ツバキ (ヤブツバキ)

開花時期：2月～4月、11月～12月 ウバキ科ツバキ属 常緑高木 樹高：3～15m
北海道南部から九州まで広く栽培されており、日本の代表的な花木の一つです。5枚の花びらが基部でくっついており、平らに開かず、筒状になっており、落下するとき、ぼとりと落ちます。



38 ハナモモ

開花時期：3月中旬～4月中旬 バラ科スモモ属、サクラ属 落葉小高木 樹高：3～8m
果樹として栽培されるモモに対して、鑑賞用に改良されたもので、色は赤、桃、白の3品種あり、ひなまつりには欠かせない花になっています。枝は横に広がらずほうき状に立つのが特徴です。



39 ジンチョウゲ

開花時期：2月下旬～4月 ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属 常緑低木 樹高：1～1.5m
早春に甘く濃厚な香りを漂わせて花を開き、この香りを、香木の沈香と丁香に例えたものが名前の由来になっています。開花期間は長く、また、北海道南部から九州まで広く栽培され、温暖な地でよく生育します。日本には室町時代に雄株のみが渡来したと言われています。

用語の補足

常緑照葉樹林…一年中緑の葉をつける広葉樹（広い葉をもつ樹木）を指し、特に葉がつやつやしているものを照葉樹といいます。

夏緑広葉樹林…夏に緑色の葉をつけ、秋から冬にかけて落葉する広葉樹をいいます。

樹木の樹高区分について…樹高とは地表からの樹木の高さを表します。一般に10m以上を高木、2、3～10mまでのものを小高木、それ以下を低木、1m以下を小低木といいます。